

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第44号

平成15年 1・2・3月



国宝 十一面観音像(部分) 当館蔵

平
常
展

仏教美術の名品

1月4日(土)～
本館

特
別
展
観

新春国宝展

1月4日(土)～2月9日(日)
東新館

特
別
陳
列

お水取り

2月18日(火)～3月23日(日)
東新館南側

特別展

新春国宝展



国宝 誕生釈迦如来立像 東大寺蔵



国宝 信貴山縁起絵巻〈飛倉の巻〉(部分) 朝護孫子寺蔵

一月四日(土)～二月九日(日) 東新館

飛鳥時代以来のわが国の美術は、仏教や神祇への信仰を多かれ少なかれ製作背景にもついていると言っても過言ではありません。信仰は、すぐれて美しい作品を各時代にわたつて生み出しています。奈良国立博物館は、仏教美術を中心に、近隣の社寺をはじめとする所蔵者の方々から多くの寄託品をお預かりし、これに館蔵品の文化財をあわせて、充実したコレクションを有しています。このうちには国宝に指定されたわが国の至宝と云うべき作品もあります。

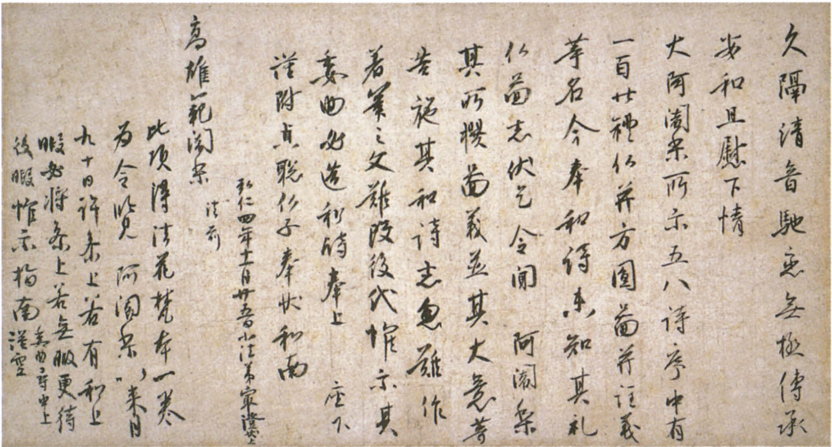
この新春は、当館に収蔵される国宝のうちから二十九件の作品を、東新館に陳列いたします。奈良時代の刺繍釈迦如来説法図(勸修寺旧蔵)がひびきさの展示となるほか、牛皮華鬘(東寺旧蔵)が十三面すべて展示されます。またわが国の平安仏教を方向付けた、空海、最澄、円珍といった人たちの自筆の筆跡も出品されます。熊野速玉大社所蔵の桐蔭絵手箱に表された室町時代の美しい蒔絵も見がせません。このまたとない機会に是非当館におこし下さい。



国宝 刺繍釈迦如来説法図(部分) 当館蔵



国宝 阿弥陀如来像(阿弥陀三尊および童子像のうち) 法華寺蔵



国宝 伝教大師筆尺牘(久隔帖) 当館蔵



国宝 桐時絵手箱 熊野速玉大社蔵



国宝 銀製鍍金狩獵文小壺(東大寺金銅鎮壇具のうち) 東大寺蔵

展 示 評

外からみる奈良博

第五十四回正倉院展を観て

関 丙賛 (韓国・国立中央博物館学芸研究官)

正倉院。韓国でも、関連分野の研究者だけでなく、歴史に関心を持つ一般人がよく知る名である。また毎年一度、奈良国立博物館で所蔵品が一般公開される「正倉院展」もよく知られており、関心のある人なら誰もが一度はその目で観てみたい展示である。

私が初めて「正倉院展」を観たのは、今から四年前、一九九八年のことである。以前から観覧への思いは切実にあったが、一年に一度、しかもたった二週間足らずという展示期間に日程を合わせるのはたやすくなかった。幸い九八年は、しばしの日本滞在中に偶然期間が重なり、期待に胸を踊らせ、東京から不遠千里で駆けつけた。展示会場は多くの人で混み合い、あちこちから「素晴らしい」という感歎の声が漏れていた。だが、私の心にはまず浮かんだのは、失望の念だった。遺物に近寄ることも、じっくりと観察することもできない環境もそうだが、何よりも展示が、私の期待とは大分違っていたためである。

私は、正倉院の遺物は当時の最高級品であり、展示品はすべて名品一色だと期待していた。ところが、その名品の横にはその包みが、またその横にはそれを縛るひもが、さらにその横にはそれらを入れる箱が、順に並べられていた。結局、会場全体で名品と言えるのは三分の一ほどで、残りは保管用の箱や包装材だった。それゆえ私にとって、感嘆する日本の観覧客は、皇室の宝物を見つけたことで、単なる観覧という次元を超え敬拝する人々のように見えた。こうした光景は、展覧会に初めて接する異邦人にとって、実になじみ難いものだった。

数日後、偶然知りあった大学生との対話で正倉院展がしばし話題に上り、展示について尋ねてみた。彼は、展示は非常に素晴らしく、感動したと言った。何に感動したのかと聞くと、彼は一言「高校の歴史で学んだ宝物を直接観ることができ、感激した」と言った。年配の人々には敬拝の対象、若者には教科書で見たものの実見、私にはそう受け止められたのだった。そんな訳で、正倉院展とは日本人のためのイベントに過ぎず、外国人にはそれほど

意味ある展示ではない、と認識するようになった。その後は縁あって毎年観覧できたが、それほど感興は湧かなかった。

そんな折、今年は新羅^{しんら}関連の展示が多いと聞き関心を寄せていたが、短い展示日程との折り合いがつかずあきらめていた矢先、偶然に機会が訪れ、展示の最終日だった十一月十一日に観覧することができた。

混み合う人波や展示方法など、全体の雰囲気は以前とさほど変わらなかったが、最初からきちんと観ようと思い、細やかな説明文を読みつつ観覧するさなか、「佐波理^{さはり}匙^し」が目飛び込んできた。新羅からの輸入品で、匙の間には、新羅の文書が今も包装紙代わりに巻かれていた。自然と、何かが胸にぐっと込みあげてきた。その少し向こうには「佐波理^{さはり}加盤^{かばん}」と、それを包んだ「新羅文書」が置かれていた。黄褐色の楮紙に野線が引かれ漢文が書かれていたが、大変鮮明で、肉眼でも十分判読できた。「おお、」知らず知らずのうちに、感嘆の声が漏れた。

記録の少なさゆえ、よく分からないことの多い新羅史。そんな中、地方支配構造や村落の具体像、民の生活を明らかにする稀有の資料「新羅村落文書」が発見された時の思いが、正にこうしたものではなかったか。また高校時代、私が国史の教科書で懸念に暗記した内容の原本がここにあるのに、どうして感嘆せずにいられようか。今回の展示を観ながら、これまで抱えてきた疑念が、自然と解かれていった。

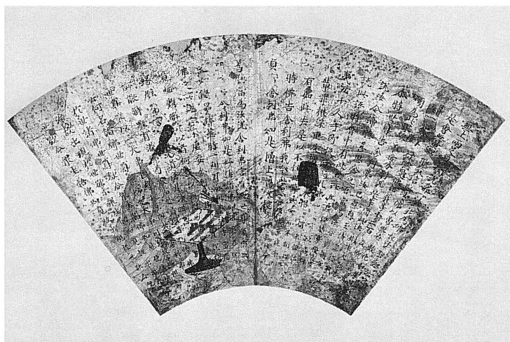
宝物だけでなく、その包みや箱を展示することの大切さ。そして幼い学生から年配の人々までが上げる感嘆の声。私もまた、そうした観覧客と同じ人となり、展示に見入っていた。ナショナルリズムとコスモポリタニズムが、二つではなく一つになり得ることを、あらためて悟った。

今後、正倉院の遺物は当時の日本の国際性を超え、さらに多くの世界人の目に触れていくだろう。韓国に限らず、コスモポリタニズムを満たす正倉院展がさらに増えるよう、願ってやまない。

(篠原啓方 訳)



第54回正倉院展 入口



重文 扇面法華經 西教寺蔵



重文 二月堂本尊光背(部分) 東大寺蔵



国宝 薬師如来坐像 当館蔵

特別展観

「新春国宝展」

1/4～2/9 東新館

【彫刻】

●誕生釈迦仏立像(東大寺)、●薬師如来坐像(当館)

【絵画】

●両界曼荼羅(子島曼荼羅(子島寺)、
●十二面観音像(当館)、●十二天像(伊舍那天・地天(西大寺)、●金光明最勝王經金字宝塔曼荼羅(中尊寺大長寿院)、
●阿弥陀三尊および童子像(法華寺)、
●辟邪絵(当館)、●天台高僧および聖徳太子像のうち聖徳太子像(二乗寺)、
●信貴山縁起絵巻(飛倉の巻)朝護孫子寺)、●山水図(水色替光図(当館)

【書跡】

●紫紙金字金光明最勝王經(当館)、●賢愚經(大聖武)(東大寺)、●伝教大師筆尺牘(久隔帖)、●弘法大師筆金剛般若経開題(以上当館)、●円珍関係文書(園城寺)、●禅院額字(前後(東福寺)、●日本書紀(当館)

【工芸】

●刺繍釈迦如来説法図(勸修寺繡帳)、
●牛皮華鬘(以上当館)、●金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、●金銅透彫華鬘(神照寺)、●蓮唐草蒔絵経箱(当館)、●金銅透彫舍利容器、●鉄宝塔(以上西大寺)、
●金銅密教法具(厳島神社)、●桐蒔絵手箱(熊野速玉大社)

【考古】

●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、●粟原寺三重塔伏鉢(談山神社)

特別陳列

「お水取り」

2/18～3/23 東新館南側

東大寺二月堂の「お水取り(修二会)」は、二月堂で十二面観音に悔過(過ちを懺悔して除災招福を祈ること)をする行法で、奈良時代から二度の中断もなく続いている伝統行事です。奈良に春を呼ぶ「お水取り」の行われる時期にあわせて毎年開催するこの展覧会では、「お水取り」に関連のある絵画・図像・文書・工芸品などを展示いたします。

この展覧会を通して「お水取り」への理解をさらに深めていただければ幸いです。

＜主な展示作品＞

◎二月堂本尊光背(東大寺)、東大寺縁起、◎類秘抄(十二面巻、紺紙銀字華嚴経△月堂焼経(以上当館)など

平常展

「仏教美術の名品」

1/4 本館

【彫刻】

奈良時代の仏像 ◎脱活乾漆 木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝教脱菩薩

立像(以上秋篠寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、◎脱活乾漆目犍連立像、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、乾漆天部坐像(当館)

平安時代前期の仏像

◎木造維摩居士坐像(当館)、◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎木造聖観音立像(観心寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造観音菩薩立像(セゾン現代美術館)

ガンダーラ・中国・朝鮮半島の仏教彫刻

「ガンダーラ」石造如来立像、石造菩薩立像、ストゥツコ如来頭部、ストゥツコ如来坐像、ストゥツコ菩薩立像、ストゥツコトラス像、石造貴婦人群像(以上個人)、石造仏伝図浮彫(当館)

【中国】

銅造二仏並坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(以上個人)、方形独尊坐像、方形阿弥陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像、多宝塔像(以上当館)、石造如来頭部(雲岡)、石造菩薩頭部(鞏県)、石造如来頭部(天龍山)、石造仏五尊像、石造仏立像、石造浄土群像、◎石造三尊仏龕(以上個人)、◎石造三尊仏龕、◎石造十一面観音立像(以上当館)

【朝鮮半島】

銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)

檀像

◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)

仮面

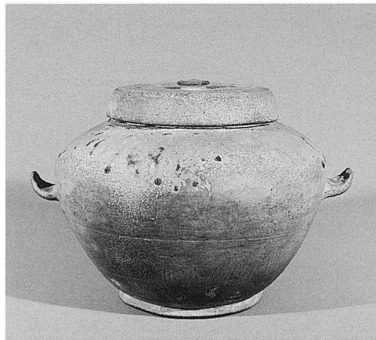
◎木造伎楽面・太狐父、◎同・醉胡従、◎同・治道、◎同・迦楼羅、◎同・崑崙、◎同・力士、◎木造舞樂面・散手、◎同・貴徳(以上東大寺、2/11)、◎同・胡飲酒、◎同・採桑老、◎木造鼻高面(以上手向山八幡宮、2/11)

平安時代後期の仏像

木造大日如来坐像(西城戸町)、木造釈迦如来坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上個人)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺、2/11)、◎木造虚空蔵菩薩坐像(北僧房、2/11)、木造伝前鬼・後鬼坐像(西南院、2/11)

鎌倉時代の仏像

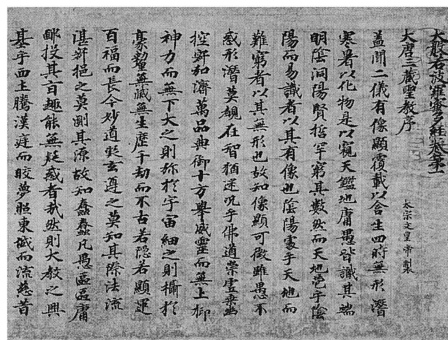
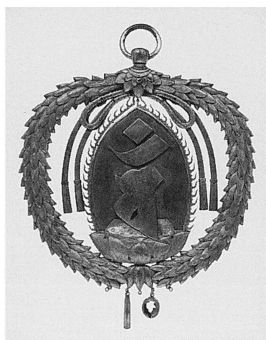
◎木造如来坐像(興福寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、◎木造十二神将立像(辰未(室生寺)、木造愛染明王像坐像、木造十一面観音立像(以上当館)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造行賀像(法相六祖像のうち、興福寺、2/18)、◎木造千手観音立像(妙法院、2/18)、◎木造十一面観音立像(元興



重文 佐井寺僧道葉墓出土品 当館蔵



重文 金銅種子華鬘 当館蔵



重文 大般若經 薬師寺蔵

寺、2/18）、木造閻魔王坐像、木造

泰山府君坐像（以上東大寺、2/18）

神仏習合の彫像 ◎銅造蔵王権現立

像（大峰山寺）、木造蔵王権現立像（当館）、

◎木造大將軍神坐像（大將軍八神社）、

木造男神坐像（観音寺）、木造伊豆山権

現立像（当館）

特集展示

「阿弥陀信仰の彫像」

2/16 本館

◎木造裸形阿弥陀如来立像、◎木造重

源上人坐像 ◎木造菩薩面（以上浄土寺）、

◎木造紅玻璃阿弥陀如来坐像（当麻寺）、

◎木造阿弥陀如来坐像（泉屋博古館）、

◎木造阿弥陀如来坐像（東大寺）、木造

地藏・龍樹菩薩坐像（当館）、木造宝冠

阿弥陀如来坐像（安楽寿院）、木造阿弥

陀如来坐像（当館）、木造阿弥陀如来立

像、木造阿弥陀如来立像（以上個人）、

木造阿弥陀如来坐像（金剛寺）、木造阿

弥陀如来坐像（当館）、木造阿弥陀如来

坐像（西大寺）、木造阿弥陀如来及び両

脇侍像（峰定寺）、木造阿弥陀如来立像

（当館）、木造阿弥陀如来立像（個人）、

木造阿弥陀如来立像（当館）、◎銅造阿

弥陀如来立像（善光寺）、鉄造阿弥陀如

来立像（西法寺）

特集展示

「動物たちの彫像」

2/18 本館

◎木造獅子・狛犬、◎木造獅子頭（以上

手向山八幡宮）、◎埴輪牛（田原本町）、

木造狛犬（植槻八幡宮）、木造獅子頭（東

大寺）◎木造獅子、◎木造獅子（文殊菩

薩像台座）、埴輪馬、埴輪犬、木造牛頭、

銅造大威徳明王騎牛像、木造龍頭（以

上当館）

【絵画】2月11日（火・祝）～3月23日（日）

東新館北側

◎釈迦八相涅槃図（劔神社）、◎仏涅槃

図（浄土寺）、◎仏涅槃図（長命寺）、◎

仏涅槃図 陸信忠筆（当館）、◎阿弥陀

浄土曼荼羅（伝清海曼荼羅（当館）、◎

九品来迎図 上品上生・下品中生（瀧

上寺）、◎扇面法華経（西教寺）

【書跡】2月11日（火・祝）～3月23日（日）

東新館北側

般若心経（隅寺心経（海龍王寺）、大般若

若経巻第四百四十六（施福寺）、◎大般若

経（魚養経（薬師寺）、紺紙金銀交書金

剛頂経瑜伽十八会指帰（中尊寺経）（当

館）、紺紙金字大智度論巻第七十四（神

護寺経）（当館）、大威徳陀羅尼経巻第

八（法隆寺一切経（当館）、◎紫紙金字

金光明最勝王経巻第二（後宇多天皇願

経）（当館）

【工芸】2月11日（火・祝）～3月23日（日）

東新館北側

◎五輪塔嵌装舍利厨子（不退寺）、五輪

塔嵌装舍利厨子（当館）、木製宝塔（当館）、

金亀舍利塔（長谷寺）、◎金銅種子華鬘

（当館）、◎刺繍三昧耶幡（当館）、◎銅

鏡（円福寺）、金銅五銖鈴（個人）、◎金

銅三昧耶五銖鈴（金峯山寺）、金銅種子

五銖鈴（当館）、金銅独銖鈴（松尾寺）、

金銅三銖鈴（個人）、金銅五銖鈴（施福寺）

【考古】2月11日（火・祝）～3月23日（日）

東新館北側

◎佐井寺僧道葉墓出土品、◎山代忌寸

真作墓誌、行基墓誌残欠、平瓶骨蔵器、

◎島根・荻村古墓出土品、長崎・壱岐鉢

形嶺経塚出土弥勒如来坐像、和歌山・

粉河経塚遺物、金銅宝幢形経筒、飛鳥

文陶製経筒（伝愛媛県北条市出土）、紙

本墨書法華経和歌山・粉河経塚出土、

紙本朱書法華経（伝大分県出土）、瓦経

（福岡・飯盛山経塚出土）、青石経（伝愛

媛・大日堂経塚出土）、金銅水滴、銅合

子（以上当館）◎青磁鉢（正暦寺）、◎線

刻蔵王権現鏡像（金峯神社）、経塚出土

鏡（当館・個人蔵）、◎銅板経（長安寺出

土）（長安寺）

平常展

坂本コレクション

「中国古代青銅器」

1/4 本館第14・15室

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、甗、方彝、卣、
甗、鼎、鬲、鬲、簋、豆、盤、匜、盃、
壺、鐘、鈇、扁壺、蒜頭壺、甗、鍔、博山炉、

鎮子、鏡、鐙など。

当館が寄贈を受けた殷周時代を中心

とした青銅器三八二点のうち二四〇点

を展示いたします。様々な器種を豊富に

揃えた見応えのあるコレクションです。ダ

イナミックかつ繊細な文様が施され、東

洋美術の源流ともいわれる青銅器の数々

をぜひご覧ください。

特別出陳

◎薬師如来立像（唐招提寺金堂）

本館

◎国宝 ◎重要文化財

出陳品は、都合により一部変更する場合
があります。

本館では彫刻、東新館では絵画、書跡、
工芸、考古のジャンル別に展示いたします。
詳しくは、「奈良国立博物館だより」ま
たはホームページをご覧ください。

◆お知らせ

空調設備の改修工事などの
ため、西新館は本年1月か
ら4月14日（月）まで閉館い
たします。その間、平常展は
本館・東新館で開催いたし
ます。

教育普及事業とボランティア活動の連携

－「博物館」を魅力ある場所に－

奈良国立博物館教育室長 宮田 康和

発足以来6年目を迎えた奈良国立博物館（以下奈良博という）解説ボランティア（以下ボランティアという）は、登録者数も年々増加し、その活動も充実深化してきている。この間、各方面から一定の評価も得ることができ、奈良博に欠くことのできない存在となっている。

(1) 作品解説

平常展・特別展・特別陳列の展示会場での解説がボランティア活動の中心をなしている。平成14年度には、「大仏開眼1250年東大寺のすべて」「観音のみ寺石山寺」「西大寺古絵図は語る」「第54回正倉院展」「一遍聖絵」などの作品解説を実施した。「東大寺のすべて」や「正倉院展」では、ボランティアが講堂において出陳宝物を約30～40分ほどにまとめて、丁寧にわかりやすく解説を行った。1日に4回、会期中に「東大寺のすべて」では延べ100回、「正倉院展」では延べ70回ほど実施することができた。

いずれの場合にも、特別に奈良市内の小学生に聞いてもらう機会があった。解説を担当したボランティアは、東大寺や正倉院の宝物を理解してもらうために、名称、技法、用途などをわかりやすい言葉で表現したり、歴史の授業と関連付けて説明したりするなど、話し方も含めて工夫をしてもらった。

解説終了時のアンケートの回答には、「時代背景や宝物の特徴、見所がよく理解でき、見学の参考になる」「内容が興味深く感激した。これからも頑張してほしい」など、感謝や激励の声を多くいただいた。ボランティアの日ごろの地道な努力が、こういった評価につながったものといえる。

また、子どもたちの自主的な作品鑑賞に役立つように、本館には「やさしい仏像の見分け方」を、展覧会ごとに「クイズにレッツチャレンジ!!」のワークシートを会場に置いている。疑問点があればボランティアにたずねることもでき、解説の際にもこれらを活用している。特に「やさしい仏像の見分け方」は、仏像の特徴がわかりやすく簡単にまとめられており、大人の見学者にも喜ばれている。

(2) 「親と子の文化財教室」の支援

5月から12月まで、各月の第2土曜日にこれを実施している。今年度は「奈良時代の歴史と美術」のテーマで、わかりやすく楽しく歴史と文化を学ぶことができた。ボランティアの支援は、会場

準備や受付・案内、機器の補助等の手伝いが中心である。この教室は、基本的に学芸員が講師を務めるが、6月実施の「東大寺のすべて」「天平衣装を着てみよう」では、ボランティアが講師を担当し、スライドや資料の準備、また奈良時代の衣装研究や衣服の試作品を制作した。

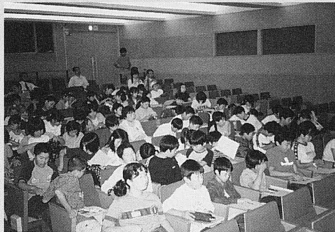
子どもの目線に立った興味深い内容と、天平貴族の衣装体験、ミニファッションショーは大いに楽しめるものであった。ボランティア個々の得意分野や能力が発揮されたといえ、その熱心な取組には頭の下がる思いである。



(3) 学習普及活動

小・中・高校生の団体・小グループでの入場が多いのも奈良博の特徴である。その際、学校側と活動の在り方などについて、事前打ち合わせの機会を持つことが望まれる。また学校においては、博物館見学の目的意識や調べ方、公共マナーなどの事前学習がなされることが大事である。奈良博（教育室）と学校との連携を図りながら、子どもたちの「総合的な学習」やグループ活動に対する有効な支援を実施している。今年に入って、そうした問い合わせが相次いでいるのは、有り難いことである。

具体的には教育室やボランティアが展示作品の解説を行ったり、学習コーナー・図書コーナーを活用しながら情報提供したり、質問などの相談にも対応することができる。また団体の場合、講堂や学習室で「ぶつぞう入門」や「奈良の社寺と仏像」のコンピュータ画像を使って、ボランティアがエピソードをまじえながらわかりやすく解説している。最近実施した、仏像の理解を助ける「四種類の仏像衣装体験」の学習も、子どもたちには大好評であり、生き生きとした表情が印象的であった。



奈良博が古都奈良の文化財に関する学習の拠点となる活動を、今後とも積極的に推進していきたい。その原動力となるのが117名のボランティアであり、これからの一層の精進と活躍を期待するところである。

●ギャラリートーク●

1月 8日(水)「新春国宝展よりー国宝の工芸についてー」 研究員 伊東 哲夫
2月12日(水)「中国古代青銅器ー坂本コレクションよりー」

仏教美術資料研究センター長 井口 喜晴

3月12日(水)「お水取りと涅槃図」 研究員 谷口 耕生

※いずれも14時から、展示室にて。入館者の聴講自由。

●ボランティアによる解説●

ボランティアによる解説を、開館日の10:00～13:00、13:30～16:30の時間帯に展示室でおこなっています。20名以上の団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。

ご予約・お問い合わせ先：教育室 宮田(電話0742-22-7008)

●展覧会日程●

	1 月	2 月	3 月
本 館	平常展(1/4～)		
西 新 館		休 館	
東 新 館	新春国宝展(1/4～2/9)	お水取り(2/18～3/23) 平常展(2/11～3/23)	休館(3/24～)

展示品の 見どころ

仏涅槃図

重要文化財
絹本着色 180.3×164.8 鎌倉時代
兵庫・浄土寺蔵

仏教の開祖である釈迦がインド・クシナガラくしながらの跋提河はだいがのほとり、沙羅双樹のもとで入滅したのは、二月十五日の満月の夜のことであった。釈迦の死は究極のさとりねはんの姿として、特に涅槃と呼ばれる。その涅槃の情景を絵画化した涅槃図は、釈迦の命日すなわち毎年二月十五日に行われる涅槃会の本尊とされ、日本全国の仏教寺院に伝わっている。

ここに紹介する浄土寺本は、数ある涅槃図の中でも彩色の美しい優品として知られており、鎌倉時代後期に制作されたものと考えられる。正方形に近い画面のほぼ中央、八本の沙羅双樹に囲まれる宝台すばくめんさいの上に、釈迦が右手を手枕にして頭を北、顔を西に向ける「頭北面西」の姿で横たわる。その周りを取り囲む菩薩や仏弟子、八部衆、四天王、象や獅子などの動物を含む会衆たちが、それぞれ顔を押しえたりひっくり返ったりして泣き叫びながら釈迦の死を悼んでいる。また、画面向かって右上には、釈迦の母である摩耶夫人が、仏弟子の阿那律に先導されながら雲に乗って駆けつけるところが描かれている。



ころが描かれている。

ところで、日本において涅槃図を本尊として行われる涅槃会は、その季節がら春を迎える年中行事としても親しまれてきた。奈良に春をつげる行事として多くの人でにぎわう東大寺の修二会（お水取り）でも、その最後を締めくくる行事として三月十五日（旧暦の二月十五日）に涅槃講が行われている。今回、浄土寺本など涅槃図がまとめて展示される当館東新館では、二月十八日（火）から三月二十三日（日）まで「お水取り展」を併せて開催する。ぜひこの機会に涅槃会と修二会という伝統ある春迎の行事の魅力の一端をあじわっていただきたい。

（企画室研究員 谷口 耕生）

■開館時間 9時30分～17時、1月12日（日）、3月12日（水）は19時まで
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日（ただし1月13日（月・祝）は開館、1月14日（火）閉館。

■観覧料金


平常展	一般	大人	大学・高校生
	420円	130円	
団体	210円	70円	

*団体は責任者が引率する20名以上。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の企画室にお申し込みください。

 奈良国立博物館
Nara National Museum